

藤棚新聞



第12号

発行

2010年 6月20日

藤棚新聞運営委員会



支え合いとつながり

かもめおもちゃ病院

ボクの電車がまた走る！



西区福祉保健活動拠点(フクシア)に、壊れて使えなくなったおもちゃの無料修理をしてくれる「かもめおもちゃ病院」があります。

この病院は2年前にフクシアの呼びかけで開業して、以来月に2回程度8名のドクター(ボランティア)が診断、修理しています。事前の電話で毎回5点まで受け付けて、部品が別途必要な場合には実費負担です。訪問したときにはピアノの修理が一通り終わって、足りない黒色のキー

を加えるために型を取っていました。まもなく女性が鳴らなくなったオルゴールを持ってきました。すこし様子を聞いてから預かって、蓋を開けてネジを巻き切ってしまったことを見つけるとてきぱきと修理しました。今度は男の子がおとうさんといっしょに電車とゲーム機のガンダムを持ってきました。電車は分解して、壊れて電気が流れない箇所を直すともとのとおりになるようになって、男の子はとても喜んでいました。しかしゲーム機はもともとの装置に足りないものがあり、どうしても治らないので納得してもらったそうです。熊のぬいぐるみやおしゃべり電話などもありました。

広報担当の采崎明さんは、「うまく修理できると私たちも嬉しい。こうしてやっていると道具や材料もいろいろ集まってきて、ガムの銀紙や使い終わったボールペンも取っておくようになります」と話しました。まさに持続可能な循環経済ですね。(受付はフクシア内 TEL: 045-450-5005)



気になるお店シリーズ

今井かまぼこ店



藤棚一番街の通りに面したお店には、いろいろなかまぼこや揚げ物がなっています。北海道稚内のたら、ほっけ、八戸の鮫、瀬戸内海のえそ、したべらなどを昔からの知り合いから送ってもらうほか築地からも仕入れて一つひとつを手作りしてお店に出しています。

石川県から来た初代が当時の横浜かまぼこに入って、販売を始めから40年経って今は二代目のご主人と奥さんが店に立っています。息子さんは研究をいろいろして、若い人にも合うように従来とは一味違う商品の開発にも力を注いでいるそうです。たくさんのメニューがなっているわけが飲み込めました。

ご主人は「ご近所の方が買ってくれるから一生懸命やっています。みんなが少しずつでも工夫すればきっとよくなります。」と話してくれました。

地域と商店街の一体となった助け合い



稲荷台小学校長 南哲朗

この4月に港北区高田中学校より稲荷台小学校に赴任しました校長の南哲朗と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

着任早々、藤棚新聞より「助け合い」というテーマの原稿依頼がありました。私が本校に赴任してから2ヶ月間に見た“助け合い”について申し上げます。稲荷台小をとりまく地域や保護者の方々に見られる“助け合い”です。

一つ目は本校の子どもたちを守っていただく助け合いです。自治会役員や地域の方々の交差点での見守り、そして保護者の皆様の校門での挨拶当番です。さらに日常的に声をかけたり時には叱ってくださる地域の皆様には直接・間接に暖かく見守っていただいています。学校も保護者もそして何より子ども本人が皆様に助けられています。

二つ目は藤棚商店街に見られる“お心遣い”です。いつも店の前をお掃除される姿も、心温まる接客も、商店街が一丸となってお客さんを招く“助け合い”であると映ります。何気ない“お心遣い”は確かな“助け合い”であることがわかります。

助け合うまち、助け合う保護者を見て育つ稲荷台小の子どもたちは、きっと自分たちも助け合う集団をつくりあげるものと信じています。しあわせな子どもたちです。



こんにちは、グループ！ 手話サークル「西」



今回は手話サークル「西」です。横浜駅東口のフクシア（西区福祉活動拠点）での学習会を訪問しました。

この日は講師のテレビキャスターの田中清先生を囲んで、およそ20人の会員が手話の学習をしました。先生はとても楽しげに活発なジェスチャーを交えた手話でお話をされて、会員のみなさんはその様子にひきこまれていました。

意思の伝え方にもその人の気持ちや場の雰囲気ですいろいろな表現の仕方があります。代表の松田景子さんにお話を伺うと、手話では5W1Hをはっきりさせて表情や体全体を使ってその場の状況を考えながら話すことが大切なのだそうです。

サークルの評判を聞いて西区の外からこられる方もいます。「会員の手話の学習及び聴覚障害者の方々との交流を図る」ことを目的に、毎週火曜日（第5週と祝日を除く）13:30～15:30にフクシアで学習会をやっています。また普段は自主学習を怠らないで、区民祭りで聴覚障害者のお手伝いや稲荷台小学校での手話指導など地域における福祉活動に対して積極的に参加及び協力しています。（注「5W1H：だれが、いつ、何を、どこで、なぜ、どうする」）

藤棚の名所名物

「藤棚という地名」



現在の藤棚交差点付近は、水道道と保土ヶ谷道の分岐点だったと伝えられています。その一角の老舗の鈴木菓子舗の脇に見事な藤があったようです。春には新緑と美しい藤の花で、まるで飾り棚のようだったと伝えられています。その後、藤棚の名は市電の停留所に採用され、それまでは西戸部町に属していたのを、昭和3年に横枕、古井戸、稻荷台を含め藤棚町としました。戦災で消失した藤棚は、地元の有志の手によって昭和52年(1977年)に復元されました。



近づく夏祭り

ことしもあちこちの公園で夏祭りが計画されています。岩井原中学のもりあげ隊のソーラン節が見られるでしょう。

久保町公園
7月31~8月1日 盆踊り



池ノ上公園
7月29日 前夜祭
30~31日 盆踊り
8月1日 祭礼

久保山墓地公園
7月30~31日 盆踊り
8月1日 神輿

THANKS MOTHER S DAY - 母の日のギフトを販売

ゆめづくり三番館 所長 小口潤子

西区内の、障がいのある方の作業所4か所(ゆめづくり三番館、みらい工房西、西区地域活動ホーム、はーと工房)が協働で「安全でステキな商品を作ろう!」と結成したコラボギフト。4回目の今回も5月の母の日に向けてギフトを販売しました。

今回はクッキー・かご・メッセージカードに加え、日総ぴゅあのハーブティーも加わり、内容盛りだくさんのギフトになりました。価格をぎりぎりにおさえ、子供にも買いやすいワンコイン500円で販売したこともあり、当初の販売目標200セットを上回って、234セットをお買い求めいただくことができました。ありがとうございます。私たちは毎回同じような商品内容にならないように、イメージや価格も見直しながら話し合っています。

次回は12月のクリスマスギフトに向けてギフトの計画中です。10月半ばころから各作業所にてチラシ配布を行う予定です。次回是非一度購入してみたいはいかがでしょうか?



歌って健康、美しく・・・ニコニコモードで3年



準備体操から始まった歌う喜びを分かち合うグループ「ドルチェ」、斉藤緑さんの指導で10名ほどのメンバーが譜面台の代わりにイスを逆向きに置き、お腹から声を出そうと発声練習に移りました。みなさん姿勢がよい。肩を上げずに背筋を伸ばし、お腹から声を出すことに集中していました。発声の基礎を十分に練習しています。斉藤先生からは「力が入りすぎた歌は聴いている方も疲れる。もっと力を抜いてお腹から声を出して・・・」と指導が入ります。そのたびに若々しい声に変わってゆきます。「そうそう、顔を上げてニコやかに、明るく自分も幸せになって歌うように」・・・母音の発声、スタッカート練習をしてから、「茶摘」「ラブミーテンダー」「聖者の行進」など本当に楽しい歌声が続きました。

グループの名は、「ドルチェ」。イタリア語で音楽用語としては「柔軟な」とか「穏やかな」と言う意味ですが、日常的には「甘いお菓子」のことです。



地域のお話処「菜の花館」を閉館、ありがとうございました

～ぶらっと立ち寄れる場をめざして～

精神障害者就労支援の会(自然食品の店 菜月) 代表 大島 昭宏



稲荷台小学校児童の絵画展示

昨年4月29日にサンモール西ヨコハマ商店街近くの空き店舗を借りて開設した地域のお話処「菜の花館」を、予定通り今年の3月末で閉館しました。地域の皆様が様々な活動を行い交流するスペースを設け、その運営をわたくしども精神障害者就労の会の職員と精神障害者が仕事として担いました。西区と周辺にお住まいの方々にスペースのご利用をお声掛けして、料金(団体使用料)をいただき貸し出しました。

期間中203日の開館日は少ない日で5名以下、多い日には20名近い利用者があり、延べ利用者数は、1,011名でした。日替わりのプログラムは、びわの葉温灸、市民グループによる傾聴サービス、かながわのむかし話を聞く会、地域の福祉ボランティアグループによる体操教室、吟詠を楽しむ会、カラオケを楽しむ会、手相占いなどです。加えて、稲荷台小児童の絵画展示、自然食のお茶やコーヒーの試飲サービスなどの利用もありました。

11ヶ月間の実験事業のため連日盛況とはいきませんでした。遊びや宿題をしに来て夕方まで帰ろうとしない小学生、散歩の途中で立ち寄りコーヒーで雑談をする男性、買い物途中で休憩していくご婦人、商店街、小学校、商店街学会、藤棚新聞など定例プログラム以外の利用もありました。生活の場に近く、ぶらっと立ち寄り、気楽に楽しむ場が求められていると感じました。ご協力ありがとうございました。

いっしょに藤棚新聞を作りませんか。取材・写真・編集・印刷・配布をします。また、広告の掲載も募集しています。下記の藤棚新聞運営委員会にご連絡ください。

【発行】藤棚新聞運営委員会 〒220-0053 横浜市西区藤棚町1-99-4【電話/ファクス】045-261-1052